市長の
タウンミーティング

～ともに進める新しい東久留米づくり～



01

住みやすい東久留米をこれからも。





豊かな水や緑に
恵まれている



都心に
アクセスしやすい



住み心地のよい
住環境

02

これからの行政運営を５つの視点から考えた。

① 市長が掲げるまちづくりを計画的に進める。



市長の所信表明に掲げられた重点的な取り組みを、計画に位置付けて推進します。

② 今の住みやすさを守りながら、未来に向けたまちづくりを進める。



これまでの暮らしやすさを維持しながら、将来を見据えた新たなまちづくりを進めます。

③ 将来を見据えた、持続可能な財政運営へ。



限られた財源の中でも、必要な行政サービスを維持しつつ、新たな財政運営の基本目標を定めます。

④ 行財政改革をさらに進め、より効果的な行政運営へ。



歳入確保や歳出抑制などの取組みに加え、DXや民間活力の活用、公共施設マネジメントを進めるとともに、業務の効率化と生産性向上を図る。

⑤ 関連する計画をまとめ、一体的に進める。



類似計画を一体的に管理することで、取組の一貫性を高め、より明確かつ正確な進捗管理が可能になります。

03

未来の東久留米
人口はどう変わる？



04 人口は減り、高齢化が進みます。

2024年
116,512人



2050年
107,967人



東久留米市の人口は、
約8,550人の減少が見込まれています。

年齢階層別に見ると・・・



お年寄り
5,225人 増加



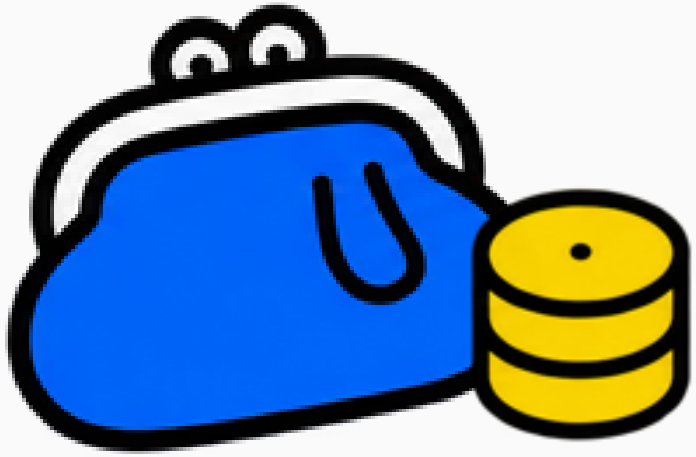
働く若い人
11,850人 減少



こども
1,920人 減少

05

市の予算、
使い道が決まっている割合はどのくらい？

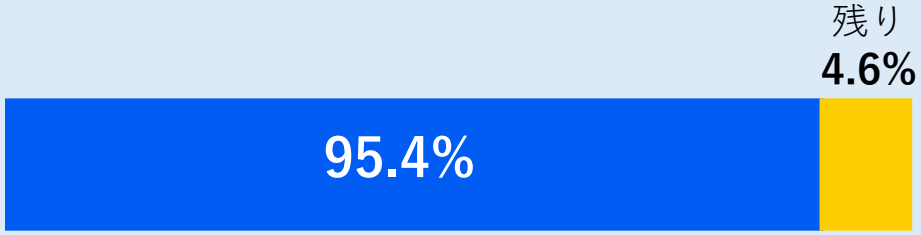


06

毎年必要な固定費が市の予算の大部分を占めています。

経常収支比率
(毎年支払が必要な割合)

95.4%



経常収支比率とは？

毎年入るお金のうち、
福祉・医療や借金の返済、職員の給料など、毎年必要な支払がどれだけ使われているかを示す指標です。

もし、1万円に置き換えると…

毎年必要な支払い
約**9,540**円



残り
約**460**円



しかし、この460円も
すべて新しい取り組みに使えるわけではありません。



公共施設の
老朽化



公園の整備 など

様々な取組みを進めて行かなければなりませんが、
新しい取組みに使えるお金には限りがあります。

07

いつまでも安心できて、次世代が誇れるまち

東久留米市は、今の住み心地の良さを大切にしながら、
50年先も魅力あふれるまちを目指す。



08

そのための道筋が
行政経営ビジョン。



09

4つの挑戦で、もっと住みやすいまちをつくる。

①東久留米駅からはじまる「新しい」まちづくり



富士見テラスの再建など、駅西側をもっとよくしていく。

②スマートで市民に優しい「新しい」市役所へ



デジタル技術を活用し、市民が利用しやすい市役所を目指す。

③「新しい」学校でこどもたちの未来を拓く



学習環境の充実化など、このまちを担うこどもたちを、全力で応援する。

④環境・経済の好循環「新しい」視点で持続可能なまち



地球温暖化対策を図りながら、地域経済を元気にする。

10

何十年後先も最高！と思える東久留米市の実現へ

これからも、
ずっと安心して過ごせて、
何十年後も東久留米でよかった
と思えるまちをめざし、
取り組みを進めていきます。

